

利根中央病院

第40号
2015年秋号

病院

だより

企画発行 利根中央病院地域連携室
〒378-0053 群馬県沼田市沼須町910-1
電話 0278-22-4325(直通) FAX 0278-22-4393
URL <http://www.tonehoken.or.jp/>

理念と方針

理念 安心と安全 参加と協同
患者中心のチーム医療

方針 救急体制の充実、いつも安全確認
絶やさぬ笑顔
診療情報提供と共に作る診療計画
広げよう人と人との結びつき
すすめよう健康づくりまちづくり





院長あいさつ	病院長	糸賀 俊一
新病院 内覧会・祝賀会・開院テープカット スナップ		
新病院竣工式典・内覧会について	事務長	片山 忍
新病院についての想い	新病院建設事務局長	布施正子
「HCUのご案内」	HCU病棟師長	菅家まなみ
回復期リハビリテーション病棟の紹介	回復期リハビリ病棟師長	藤林信子
病院併設ヘリポート	救急科部長	関原正夫
「玄関ボランティアの活動」紹介	代表	永井武志
編集後記		
新病院完成によせて	新病院建設委員長・脳神経外科部長	河内英行



新病院開設に寄せて

病院長 糸賀 俊一

利根中央病院は昨年、開設60年を迎え、9月1日に新病院が開院 9月2日に外来オープンいたしました。開設以来、一貫して「利根沼田の医療事情の改善」を第1の目標にして組合員と共に医療活動を続けてきました。とくに救急医療は、力を注いできた分野で、2次救急輪番病院の中心的存在として、救急車収容は全体の約40%を占めております。また、県指定の「小児救急輪番制病院」及び「災害拠点病院」となっております。

医師研修の分野でも当地域で唯一の厚生労働省指定「基幹型臨床研修病院」（群馬大学医学部附属病院、前橋赤十字病院ほかの研修関連病院）として、医師会、保健福祉事務所、群馬県と連携し医師養成に取り組んでいます。そして利根沼田地域唯一の総合病院として今まで以上に質の高い医療と、快適な療養環境のもとで提供できるようになります。CT、MRIなど最新の医療機器の導入、救急部の拡大、重症患者さんへの対応が可能なHCU病床の増設、健診部の拡大、回復期リハ病棟の新設、そして病棟編成では個室を増やし療養環境の改善につとめました。また新病院では、コジェネレーションシステムの採用による自家発電設備、地下水の利用、ヘリポートの建設等 省エネシステムの採用と、災害拠点病院としての機能も完備しました。

昨年はWHOの提唱するHPH（健康増進活動拠点病院）に加盟し、今後も地域の救急医療、慢性疾患管理、健診、疾病予防活動等を、SDH（健康の社会的決定要因）の可視化を念頭に、医療介護に取り組んでまいります。

今年の4月から総合診療科が本格的に5名体制で診療開始しました。医療は患者、住民と共に創りあげていくものであり、その視点を忘れずに、病院職員と組合員が力を合わせ、「一人になっても、認知症になっても、ガンになっても安心して暮らせる」まちづくりを進めるために、利根中央病院が地域のなかでどのように貢献できるかを考え、多くの医療機関と連携し、地域に開かれた病院として利根沼田地域の医療、介護 福祉の向上に尽力していく所存であります。今後ともよろしく願いいたします。





新病院竣工式典・内覧会について

病院事務長 片山 忍



新病院開設に向けて8月19日～21日の3日間で利根保健生協の組合員を対象に内覧会が開かれました。また、22日には竣工式典招待者向けの内覧会、23日には一般および関係者向けの内覧会と竣工まつりが行われ、計5日間で約3,000名の来場がありました。特に23日の内覧会・竣工まつりでは手久野太鼓の演奏に始まり、東原新町のお囃子、新町の神輿、沼須町の人形浄瑠璃と地元の皆さまの協力により、内覧に華を添えていただき、内覧開始10時には多くの来場者が受付前に集まり、新病院に対する関心の高さを実感しました。

22日ホテルヴェラヴィータで行われた竣工式典は、群馬大学、沼田利根医師会、自治体、関係医療機関や医療生協など多くの団体関係者からご来賓いただきました。群馬大学 峯岸医学部長、沼田利根医師会 藤塚会長、利根沼田広域圏組合 横山理事長（沼田市長）から、新病院への期待や地域での役割などの心温まるご祝辞をいただき、鏡開きが盛大に行われました。

その後の祝賀会では、群馬大学医学部附属病院 村上病院長補佐やたくさんの方の関係者から、お祝いメッセージと併せて「利根中央病院はまさしくチーム医療を実践している病院」、「地域唯一の総合病院としてますます発展してほしい」などの言葉をいただき、新たな出発の“決意”と新病院での“覚悟”をすることができました。これからも地域の皆様とともに地域包括ケアの一翼を担っていきたいと思います。職員一同にとっても大変良いスタートとなりました。





新病院についての想い

看護部長 布施 正子

看護部では、新病院開設とともに7看護単位に病棟数が増えること、新たに立ち上げる回復期リハビリ病棟やHCU（ハイケアユニット）の増床、各課病棟編成また外来のブロック化等に向けてこの間論議を重ねてきました。職場やシステムが変わっても患者様に安全・安心な医療、看護が提供できるよう、業務基準・手順の標準化、外部研修や医師の協力を得ながら毎日のように学習会を開催し新病院開設を迎えました。開設後3か月が経過するなかで、多少の混乱はありましたが大きな事故もなく徐々に落ち着きを取り戻しつつあるのが現状です。

新病院建設に盛り込んでいただいた看護部のアイデアを少し紹介します。多職種間で患者様の必要な情報が共有できるようベッドサイドに「ピクトグラム」を導入。万が一ベッドから転落してもケガを最小限に留められるよう一般病棟全て「低床電動ベッド」。トイレ誘導をできる限り行うために「ほぼ全室にトイレを設置」。外来診療が少しでもスムーズにいくよう各ブロック毎に「問診室」を設置等々です。

新病院は個室率が旧病院の約2倍、患者様の重症度にあわせた病床機能編成と看護配置、外来はかりやすさの追求等機能が充実されました。また周辺の自然の豊かさも相まって快適な療養環境となっています。地域包括ケアが目指す「住み慣れた地域で安心して暮らす」を実現するためにも、私たち看護部は看護部の理念を念頭に、この地域で当院が果たす役割をさらに充実させていきたいと思っております。

看護部の理念

「患者様に寄り添い 患者様の声に耳を傾け
患者様を支援する看護」

『HCUのご案内』

HCU師長 菅家 まなみ



今回新病院移転に伴いHCU12床が新設となりました。病棟は手術室と隣接することで術後患者様をスムーズに受け入れ、また病院中央の階である3階病棟であり、急変した際、救急外来からの入院同線もよい位置に設置してあります。階のイメージカラーは赤、病棟はA病棟でエメラルドグリーンです。

HCUとはICU（集中治療室）と一般病棟の中間に位置する病棟で手術後の患者様や重篤な患者様を一時的に収容する病棟です。当院のHCUはICUに近い位置づけとなっております。

旧病院では重症患者様も認知症患者様もある程度安定した患者様も同じ病棟で混在していましたが今回HCU12床を立ち上げることと重症者を集約化、看護配置も一般病棟7：1看護から4：1看護と手厚い看護も行なえるようになりました。さらに重症管理を行なううえで大切な医療機器類も充実させることができました。

開設から今まで手術後の患者様や救急外来から重篤な状態で入院してくる患者様、病棟で急変や病状悪化した患者様の受け入れを行なっております。

患者様に安心して医療を受けて頂けるようスタッフ一同現在スキルアップにも励んでいます。



回復期リハビリテーション病棟の紹介



回復期リハビリ病棟師長 藤林 信子

自分のできることを増やす援助 ！

回復期リハビリテーション病棟（以下、回り八病棟）は、急性期治療を終了した脳卒中や骨折・関節疾患の手術の患者様に対して、身体機能や日常生活動作の能力の向上、在宅生活や社会復帰を目標に集中的にリハビリテーション（以下リハビリ）を行う病棟です。

入院の対象となるのは、脳卒中、大腿骨、脊椎等の骨折、肺炎や手術後の廃用症候群（筋力や持久力が低下し、歩行や排泄動作等の日常生活を営む機能が低下した状態）の場合は発症あるいは手術から2か月以内、人工股関節や人工膝関節置換術後の場合は手術から1か月以内の患者様です。入院可能な期間は、脳卒中の場合は150日（高次機能障害を伴う重症の場合は180日）、大腿骨脊椎等の骨折、人工股関節、膝関節、廃用症候群などの場合は90日と疾患によって違いがあります。実際の入院期間は患者様の回復状況や退院先等によって異なります。

当院回復期リハビリテーション病棟は、2015年9月に33床で開設いたしました。医師1名、看護師7名、介護士7名、理学療法士10名、作業療法士2名、（必要に応じて言語聴覚士も関わる）医療相談員2名、管理栄養士1名、病棟事務1名が病棟業務に携わっています。

リハビリにより、発症・受傷前の状態まで回復することがより良いことです。しかし、軽重の差はありますが、なんらかの機能障害を残すことが多いのも現実です。障害を受けた部位の練習と併せて、障害を受けなかった身体機能をさらに強化し、介助してもらうことを少なく、自分でできることを増やしていくよう援助していきます。

多くの職種からなる病棟スタッフが、患者様・ご家族を中心としてチームを



組んで、共に力を発揮して、患者様にあった自分らしい生活を作り上げていくことが、回り八病棟の目標です。当院回り八病棟でリハビリをして良かったと思っていただけるように、病棟スタッフ一同、努力していきます。



病院併設ヘリポート

救急科部長 関原 正夫



利根中央病院では新病院開設にあたりヘリポートが設置されました。利根沼田地域では、病院併設のヘリポートは初めての設置となります。ヘリポート自体は20m四方の大きさで、周囲をフェンスで囲む

ことにより安全管理にも配慮しており、さらに外部スピーカーによる注意喚起放送も行っています。離着陸時の安全管理については利根沼田広域消防本部の協力を頂きながら、運用を開始しています。現在、群馬県においてはDrヘリ、群馬県防災ヘリ、群馬県警ヘリが運用されていますが、夜間運航は行っておりません。従って照明も夜間飛行用ではありませんが、大災害のような有事の際も考慮し、簡易な照明を整備しました。

特に救急医療においては、Drヘリ、群馬県防災ヘリの当院ヘリポート使用に多くの期待が寄せられています。傷病発生現場においてヘリに収容された傷病者を当院へ収容する場合、以前はヘリを近隣に着陸させ、救急車に移乗してから病院へ陸送していました。このヘリポートを利用することにより直接院内に収容することにより、治療開始時間の短縮が期待されます。また、



他院への転院搬送に関しても同様に、転院所要時間の短縮が可能です。

当地域は谷川岳や尾瀬が背後に控えており、山岳地域での救急医療には、傷病発生地までのアクセスや病院までの距離からもヘリコプターとは表裏一体の関係となっています。今後、当院のヘリポートの利用により、治療開始時間の短縮が図れることを期待しています。

『玄関ボランティアの活動』 紹介

ボランティア 代表 永井武志

現在、16名が登録して活動をしています。ボランティアはおそろいの緑のエプロンを着用して毎日玄関にいます。患者さんが受診にみえる午前中を中心に車の乗降介助、歩行が不安定な方への介助、受診受付のお手伝いを行っています。元気よく明るい挨拶を心掛け、他のボランティアと連携して患者さんがスムーズに気持ち良く病院を利用していただけるように心がけています。

私達ボランティアは「参加することが生きがい」「楽しく続けたい」と活動を通して、利根中央病院に愛着を持っています。9月に新病院に移転して患者さんも増えました。ボランティアの活躍の場もたくさんあります。おいしいと評判の焼き立てパンも地域の方々との交流に一役買っています。今後も楽しく元気に活動するための仲間、参加者を募っていききたいと思います。



新病院完成によせて

平成27年9月2日、新しい利根中央病院が稼働を始めました。新病院への移転準備の際には、沼田利根医師会を通じて、輪番日の変更等、ご配慮いただき、誠にありがとうございました。

新病院は、『地域の人々のいのちとくらしを守るため、健康づくりとまちづくりの拠点となる病院。総合診療機能を有し、救急医療に責任を持つ病院。』をコンセプトに設計いたしました。重症患者対応のHCUの開設・手術室でのバイオクリーンルームや、産科のLDRなど安心・安全な医療を提供いたします。

また、回復期リハビリ病棟・健診センター等も設置し、地域の方々の健康づくりにお役にたてればと考えております。

今後も、病病連携・病診連携を積極的に進め、先生方と協力し、利根沼田地域の人々の健康な暮らしをまもり、安定した医療の提供が行えるよう努力していきたいと思っておりますので、今後もよろしくお願いいたします。

新病院建設委員長・脳神経外科部長
河内 英行



